

吉野杉間伐之光景

絵はがき（大和大瀧榊谷林生堂発行）

大正 7（1918）年～昭和 8（1933）年

写真提供：成瀬匡章氏



NHK 「小さな旅」 木を伐る民 ～奈良県吉野～ 令和元年 11 月 17 日放送

深山・奈良県吉野は、日本の林業家達にとって聖地と称される地。山の斜面には江戸時代に植えられたスギやヒノキが整然と並びます。この美林を代々守ってきた「やまいき」と呼ばれる男たち。巨大な丸太から巧みな技で様々な部材を切り分ける職人。吉野で最後の一人となった桶職人は、一生ものの木桶作りに丹精します。いにしえより木とともに生きてきた吉野の山々の物語。



吉野杉間伐光景 大正末頃
(放映された写真)



※木材搬出の光景
(キンマ)

※吉野杉五十年生伐採光景
大正末頃

江戸時代から植林が行われてきた吉野。木々の手入れをし、見事な技術で木をきるのは、やまいきと呼ばれる職人たちです。

※昭和初期
灘の酒樽用の
樽材加工風景



吉野杉の桶家と樽

年輪が揃い、木目が細かく美しい吉野杉を柾目に割り、乾燥させ、輪状に並べ、「たが」で締めて作られています。吉野杉の優美な味わいが愛好されています。

写真はいずれも成瀬匡章氏提供
※写真は放映されていません。